

### 【中山崎南東岸の泊層】

玄武岩の枕状溶岩とハイアロクラスタイトを主体とする。

枕状溶岩は、径 30~80cm の円柱状のピローローブが折り重なるように累重している。1~2cm のパン皮状の急冷縁および弱い放射状の節理が認められる。

ハイアロクラスタイトは、水中に噴出した溶岩が急冷されてできた細かい碎屑粒子を主体とした岩石（水冷破碎された火砕岩の一種）。径 10~50cm の玄武岩角礫と基質の淡黄色中~細粒凝灰岩からなり、基質中には玄武岩質ガラスの細粒岩片が含まれる。基質が淡黄色なのは、よりガラス質であるため風化・変質を強く受けたことによる。径 30~50cm で 1~2cm の急冷縁をもち、放射状節理や弱い同心円状節理が発達した枕状角礫も散在している。

枕状溶岩および枕状角礫の表面には、固まる際にできた縄状の模様および張力亀裂などの特徴的な構造がよく保存されている。

※滝本俊明（1986）は、弥次郎穴付近以北を金津山層、中山崎付近以南を泊層、その間を月山層に区分している。年代の古い順に金津山層（安山岩）、月山層（玄武岩質安山岩）、泊層（玄武岩）となり、貫入岩は泊層と同時期と考えられている。



枕状溶岩とハイアロクラスタイト



縄状模様の溶岩

### 【火山岩の分類】

火山岩	玄武岩	安山岩	デイサイト	流紋岩
色	黒 ←—————→			白
粘性	低 ←—————→			高
珪酸分	少 ←—————→			多

※玄武岩質溶岩は、珪酸分が少ないため粘性が低く流れやすい

### 【火砕岩の分類】

火砕岩は、火山活動で放出されたさまざまな大きさの碎屑物が固まってできた岩石で、次のように分類される。

- 凝灰岩：火山灰（径 2mm 以下）を主体とする岩石
- 火山礫凝灰岩：火山灰を主体とし、火山礫（径 2~64mm）を含む岩石
- 凝灰角礫岩：火山灰を主体とし、火山岩塊（径 64mm 以上）や火山礫を含む岩石